

どんな時にも、 誰もが安心して暮らせるように

～福祉専門職の被災者支援のあり方～



西成区役所での合同訓練の風景

東日本大震災のような大規模災害が起きたとき、福祉専門職・機関は、地域に対して何ができるのでしょうか。被災した人たちをどのように守るのか。要援護者へのケアは。課題はつきません。大阪市内にも東日本大震災から避難した被災者がいて、各地で様々な支援が行われています。本号では、西成区で、家族を支援する区社会福祉協議会および、大規模災害を想定した防災マニュアルを作成する高齢者福祉施設の取り組みを紹介し、福祉専門職による被災者支援のあり方について考えます。

被災家族の支援

西成区社会福祉協議会

どんな業務よりも最優先に

西成区の南津守地域、長橋地域の市営住宅には、現在(3月8日)、45世帯88人の被災者が暮らしています。すでに仕事の都合で地元に戻ったり、友人の援助で他市町村へ移転したりした4世帯をあわせると、約100人の被災者が西成のまちで生活しています。

被災家族の受け入れが始まったのは平成23年3月末。まず、12世帯が入居しました。

「布団もない、カーテンもない。とにかく住めるようにと、大阪市が用意し

た寝具セット、食器類、傘など日用品を人数分揃えて渡す作業から始まりました。さらに、紙おむつや医療機関のリストなど、必要なものが次々に出てきて、その対処は「待たなしの総力戦」。まずは最優先して取り組みました」と西成区社会福祉協議会(以

下、区社協)の事務局長・園山仁さんは振り返ります。

一世帯ごとにファイルをつくり情報を共有

被災家族のために、区社協ができ



南津守社協主催のクリスマス昼食会后、避難した子どもたちに民謡を教える地域の大人たち



地域の人たち(ピンクのジャンパー)と一緒にランナーに声援を送る避難者(帽子の男性や前にいる女性など)

ることは何か。それは、区民へのサービスと同様、地域で安心して暮らせるように、まずは、地域の人たちや行政サービス、専門機関等につないでいくことでした。そして、どんな困りごとがあるのか知ることからはじめました。

地域生活支援担当副主幹・阿部良秀さんは、訪問するときの様子をこう話します。「『困っていることはありませんか?』とお聞きしても『大丈夫です』と遠慮がち。関西人との気質の差に最初はとまどいでしたが、時間をかけていろんなお話をしていくと少しずつうちとけて『実は…』と話して下さるようになりました」

健康への心配があれば医療機関や地域包括支援センターを紹介したり、住民登録、介護保険や緊急援護資金の申請などは区役所を紹介し、自力で行くことが不安な場合は職員が窓口まで同行して手続きをサポートしました。

この他にも生活に役立つ情報、例えば、地下鉄の路線図、防災・防犯

マップ、ふれあい喫茶サロンのチラシ、子育てサポート情報など、区内のあらゆる情報を提供しました。その時心がけたのは、家のポストに投函するのではなく、手渡しする“顔の見える情報提供”です。そのため、週に何度も訪ねることもありました。

「年齢の若い被災者の相談事は『仕事をしたい』というのがトップです。ハローワークはどう行けばいいのか。地理や電車の乗り換え方法等がわからないことも多く、道案内から始まりました」と地域生活支援ワーカー主査・松本猛さんは話します。

被災家族も 同じ地域の住民

被災家族の市営住宅受け入れが発表された後、すぐに受け入れ体制をつくったのが、地元の地区社会福祉協議会の役員を中心とした方々でした。「全戸の訪問活動を行っています。ゴミ

の捨て方ひとつでも、地域の人たちが伝えることで、接点が生まれます」と園山さん。

この3月からは、ネットワーク委員会が中心となって、被災された方々が気軽に集まり、話すことで日頃のストレスを少しでも軽くできればと、地域の集会所を開放することもしています。また、昨年12月のクリスマス会に招待し、手作りの食事をふるまい、民謡の振付けを教えてもらい披露し合うなど、同じ地域に住む住民として、関係が出来あがってきています。

こうした地域団体の自主的な活動が次々と生まれるのも、地域が一丸となって支えようという姿勢が築かれているから。園山さんは今の気持ちをこう話します。

「ありがたいことに、避難されたご家族の中には『西成に永住したい』とおっしゃる方もいらっしゃいます。区社協あがての支援は無駄ではなかった。これを励みに地域の方と一緒にあって、被災した方の心がいやされる環境をつくっていきたいと思います」

支援されるだけでなく 「応援したい」

現在、避難した被災者は地域との関わりを深め、新しい役割を担いつつあると、総務課長・藤野正司さんはいいます。

「昨年秋に開催された、第1回大阪マラソンの前に『一緒に応援しませんか?』と声をかけたんです。とても喜ばれ、当日は南津守社協の応援ブース

で『西成-東北』の横断幕をもって、地域の方々と一緒にランナーに精一杯の声援をおくっておられました。宮城県出身のランナーが前を走った時には『わたしたちもがんばってるから、がんばって!』と、手を振って応援されていたんです。胸が熱くなる光景でした」。

大阪市内に避難し、生活されている方々の“～したい”の想いに対して、社協として橋渡しできればと、藤野さんは話してくれました。



セミナー「大規模災害に学ぶー福祉施設の災害対応を考えるー」(主催:大阪市老人福祉施設連盟)では、多くの施設関係者が参加

要援護者の支援

社会福祉法人 白寿会
特別養護老人ホーム白寿苑

災害時、地域の要援護者を守るのは?

大規模災害が起きた時、福祉施設に求められる役割は何でしょうか。利用者の安全を守るのは大前提ですが、それ以外に、福祉避難所(※1)や緊急入所施設(※2)という形で、地域の要援護者を守る役割が期待されています。

西成区における「福祉避難所」第1号は特別養護老人ホーム白寿苑。運営する白寿会ディレクター・三浦浩史さんはこう話します。

「東日本大震災でも犠牲者の多くは高齢者です。福祉施設は、建物が丈夫で、スペースもゆったりしていて、設備

が整い、専門職が常駐しています。その強みを活かせば、災害時、地域に住む、お年寄りや障害のある人を一人でも多く助けられるのではないかと考えています」

実際に、大規模災害が起きた時、どのように動けばいいのか。一般的に福祉施設では定期的な防災訓練が行われているものの、直下型の大地震や地震に伴う巨大津波に襲われた時の要援護者への対処については、十分に議論されていないのが実情です。

マニュアルづくりで防災意識を向上

そこで、大阪市と一般社団法人大阪市老人福祉施設連盟(市老連)が協働し、必ず来るといわれている生駒・上町断層地震や東海・南海・東南海地震を想定した「大阪市高齢者施設等防災マニュアルVer1.0」を作成してい

ます。防災マニュアルの後半は、できるだけ多くの福祉施設が活用できるように、必要事項を書き込んで使える『福祉避難所・緊急入所施設設置・運営マニュアル』となっています。ただし「福祉避難所」として行政と協定が結ばれていなければ、災害時に要援護者を避難させても、支援物資が届かない可能性があるので注意が必要です」と三浦さん。

白寿苑では、前述のマニュアル作成だけでなく、自組織のマニュアルづくりを総力を挙げて、検討・作成しています。災害時の課題を出し合い議論を繰り返すことで、職員の意識も少しずつ向上しているそうです。「『地震がきたらどうしますか』と聞いた時、何も答えられなかった職員が、アイデアを提案できるようになってきました。現実に即した災害訓練を何度も繰り返し意識を高めて欲しいと思います」と三浦さん。



玉出地域の防災訓練に白寿苑関係者も参加。訓練で見えてきた課題に対して、福祉施設として何ができるか考えるきっかけに

課題は、情報伝達、 人員体制、備蓄物資

災害時の課題には、どのようなものがあるのでしょうか。

「第一に情報伝達です。電話やFAXが途絶えるため、ツイッターや無線機、インカム（通信・通話用機器）が使えないか考えています」

次に支援体制づくりです。

「発生時、施設にいるのは出勤している職員と、徒歩圏に住んでいる職員のみ。それだけで運営しなければなりません。そこにどう指示命令を行うかは大きな課題です」

そして食料など備蓄があります。

「行政から支援物資が届くまでの3日間を想定して、地域の人たちが避難してきたことも踏まえての備蓄量の検討、流動食の確保。悩ましいのは備蓄場所です。地下では津波がきた場合に台無しになるし、かといって高いと

ころに置けば火事の時に燃えてしまう。分散するなら、倍の量が必要です。このほか、吸引、在宅酸素、インシュリンが必要な人、24時間介護ケアが必要な人への対応をどうするのか。機器を使用するなら、自家発電も必要。課題は枚挙に暇がありません」と、三浦さんは対応の必要性を示唆します。

できることを出し合って 地域の力は不可欠

白寿会では、災害時の動きをシミュレーションするため、区役所、地域包括支援センターの協力のもと、玉出地域の町会を中心とした避難訓練を開催しました。早朝から約300人が参加したそうです。

「わかったのは、避難スペースの不

足。地域の小学校には300人避難すればぎゅうぎゅう詰めでした」

また、災害時の人手不足も深刻です。「白寿苑の場合、6mの津波がきたら、2階にいる寝たきりの高齢者40人を3階に避難させなければなりません。もしも地震が夜間に起きれば、夜勤の2人で約40人は、とても運びきれません。そんな時、要介護者の移動を近隣の人たちが手伝ってくれたら、とても理想的です」

大規模災害の被害を最小限にとどめるには、地域の力は不可欠。三浦さんは、民間も含めた広範囲の防災ネットワークを提案します。

「災害時には、町会、保育所、小学校、スーパー、高齢者施設等それぞれできることは違うと思います。担当者が集まり、地域の一員として、それぞれができることを確認し合うことが大切です。そのためには、普段から、防災意識を高め合うとともに、いい関係をつくっていかなければならないでしょう」

※1

福祉避難所とは、高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、病弱者等で入院の必要や施設に入所するほどではないが、収容避難所では生活に支障をきたす人たちのために、何らかの特別な配慮がなされている避難所

※2

緊急入所施設とは、避難所や自宅で生活することができない要介護者のうち、身体状況の悪化により、緊急に入所介護・療養等が必要な人に対応する施設

「大阪市高齢者施設等防災マニュアル」のダウンロードはコチラ

<http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000139215.html>

1 社会福祉史の市民講座(第1回) “ゆりかごから墓場まで”の福祉目標を目指して ～比嘉正子と都島友の会の実践～

比嘉正子は、昭和6(1931)年、当時の都島に幼稚園がない中で、青空幼稚園を設立しました。以降、戦中・戦後の厳しい社会状況の中、乳幼児やその親を支援する社会福祉事業を中心に実践。創設した「都島友の会」は、平成23(2011)年に80年の歴史を刻みました。多様な福祉課題の解決に果敢に取り組んだ比嘉正子の思想と実践を学びます。

- 対象者 大阪市内在住・在勤・在学者
- 日時 4月28日(土)午後2時～4時
- 講師 渡久地 歌子(社会福祉法人都島友の会 理事長)
- 定員 50人(先着順)
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター 会議室1(西成区出城2-5-20)
- 参加費 無料
- 締切日 4月18日(水)
- 申込方法 下記の「申込記載事項」を記入のうえ、ファックス・はがき・ホームページからお申し込みください

2 社会福祉史の市民講座(第2回) 聖和共働福祉会“危機と再生”の80年 大毎慈善団・村嶋帰之、 ランバス女学院・山川道子の関わりを中心に

聖和共働福祉会は、昭和6(1931)年に大阪毎日新聞慈善団(大毎慈善団)の創立20周年記念事業として設立され、「共栄館」と妊産婦・乳幼児の為の保健所からスタート。平成23(2011)年に80年を迎えましたが、この間の様々な困難な状況に対して、多くの組織・人の支援を受け、「共働(とも

にはたらく)」の精神で今日に至っています。本講座では、特に創設期の大毎慈善団(村嶋帰之)とランバス女学院(山川道子)の働きに焦点をあてながら、聖和共働福祉会の危機と再生の歴史を学びます。

- 対象者 大阪市内在住・在勤・在学者
- 日時 6月23日(土)午後2時～4時
- 講師 森本 宮仁子(社会福祉法人聖和共働福祉会 事務局長)
- 定員 50人(先着順)
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター 会議室1(西成区出城2-5-20)
- 参加費 無料
- 締切日 6月6日(水)
- 申込方法 下記の「申込記載事項」を記入のうえ、ファックス・はがき・ホームページからお申し込みください

3 介護実習講座(春号) —入門コース—

家庭で初めて介護する方に、介護の知識や技術を体験し、介護への関心や理解を深めるコースです。土曜日クラスと火曜日クラスがあり、3回の講座に参加できる人が対象です。(過去に本講座を受講された方、介護職に就いている方は、お申し込みいただけません)

- 対象者 大阪市内在住・在勤・在学者
- 日時 〈火曜日クラス〉
5月8日、15日、22日 いずれも午前10時～午後0時30分
- 内容 1日目:移動、車いすの使い方
2日目:食事介助、衣服交換
3日目:清潔介護
- 定員 20人(先着順)
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター 介護実習室(西成区出城2-5-20)
- 参加費 無料
- 申込方法 講座名とクラス名、名前、住所、年

齢、電話番号、介護経験の有無(ある人は年数)、を記載のうえ、はがき・ファックス・電話にてお申し込みください。

- その他 すぐに定員になることが多い講座です。事前に申込状況を電話で確認いただいでから申込されることをお勧めします

●①②③の申込・問合せ先

大阪市社会福祉研修・情報センター
〒557-0024 西成区出城2-5-20
☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272
URL <http://www.wel-osaka.jp>

4 第41回 弘済院附属病院 高齢者医療公開講座

- 日時 5月30日(水)午後2時～3時
整形外科の保存的治療～腰痛、関節痛の原因と治療を中心にして～
- 講師 折戸 芳紀(大阪市立弘済院附属病院 整形外科部長兼放射線科部長)
- 定員 90人(先着順)
- 会場 弘済院 寿楽館(吹田市古江台6-2-1)
- 参加費 無料
- 締切日 5月24日(木)
- 申込方法 名前(ふりがな)、住所、電話番号を記入のうえ、ファックス・電話からお申し込みください。
- その他 参加証はお送りしませんので、当日は直接会場にお越しください。定員を超えた場合のみ連絡します。

●申込・問合せ先

大阪市立弘済院 総合相談室
〒565-0874 吹田市古江台6-2-1
☎06-6871-8032 FAX06-6871-8034

申込記載事項

【必須項目】①研修(講演会)名、②名前(ふりがな)、③年齢、④連絡先住所(〒)、⑤電話、ファックス番号、⑥勤務先(所属)
※必須項目以外にも、必要な項目がある場合がありますので、忘れず記載ください

大阪市社会福祉研修・情報センター 会議室等貸室利用の変更のお知らせ

大阪市社会福祉研修・情報センターでは、大阪市健康福祉局の指定管理者業務の範囲の変更にとまひ、
平成24年4月1日から、5階の講座室1・講座室2・演習室2・演習室3・演習室4の利用を休止します。

[平成24年4月1日以降、利用可能な部屋]

| | 時間区分 | | 午前 (9:30~12:30) | 午後 (13:00~17:00) | 夜間 (18:00~21:00) | 昼夜間 (9:30~21:00) |
|----|---------|-----|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| | 室名 | 定員 | | | | |
| 4階 | 会議室(1) | 99 | 3,800円 | 5,100円 | 3,800円 | 11,400円 |
| | 会議室(1)東 | 45 | 1,900円 | 2,600円 | 1,900円 | 5,800円 |
| | 会議室(1)西 | 54 | 2,900円 | 3,800円 | 2,900円 | 8,600円 |
| | 調理実習室 | 50 | 3,800円 | 5,100円 | 3,800円 | 11,400円 |
| | 介護実習室 | 36 | 5,700円 | 7,600円 | 5,700円 | 17,100円 |
| | 多目的室 | 18 | 1,000円 | 1,300円 | 1,000円 | 3,000円 |
| 5階 | 大会議室 | 144 | 5,800円 | 7,700円 | 5,800円 | 17,400円 |
| | 会議室(2) | 60 | 2,900円 | 3,800円 | 2,900円 | 8,600円 |
| | 演習室(1) | 18 | 1,000円 | 1,300円 | 1,000円 | 3,000円 |

※土・日曜日のご利用時間は午前9時30分～午後5時までです。夜間の貸し出しは行っていません
※また、一部の部屋の改修工事(工期未定)が予定されています。ご不便をおかけいたしますがよろしくお願いいたします
※部屋の申込等につきましては、本誌裏表紙をご覧ください

問合せ先: ☎06-4392-8200

大阪市社会福祉研修・情報センター 「平成24年度社会福祉研修・介護実習研修事業」一覧表

具体的な内容については各施設への案内やホームページ (<http://www.wel-osaka.jp/>) に掲載します。

| 種別 | No. | 研修名 | 受講対象者 | 実施回数(予定) | 実施時期(予定) | 定員 | | |
|-------------------------|------------------------------|-----------------------------------|--|---|------------------------|-------------------------|------------------|----|
| 福祉従事者研修 | 1 | 社会福祉施設職員 階層別研修 | 新任職員研修 | 福祉業務経験が概ね2年未満の職員 | 1回(3日間) | 6月5日、6月12日、 6月14日 | 50 | |
| | | | 中堅職員研修 I | 福祉業務経験が概ね2年以上5年未満の職員 | 1回(2日間) | 8月24日、8月29日 | 50 | |
| | | | 中堅職員研修 II | 福祉業務経験が概ね5年以上10年未満の職員 | 1回(3日間) | 9月5日、9月12日、 9月20日 | 50 | |
| | | | 指導的職員研修 | 福祉業務経験が概ね10年以上の主任・係長などの 指導的な職員 | 1回(3日間) | 11月27日、12月4日、 12月11日 | 30 | |
| | | | 施設長等運営管理職員研修 | 施設長、事務長等の運営管理職員 | 1回(2日間) | 2月14日、2月15日 | 30 | |
| | 2 | 社会福祉施設職員健康管理講習会 | 社会福祉従事者 | 2回(2講座各1日間) | 6月6日、2月 | 各50 | | |
| | 3 | 福祉職員のメンタルヘルス研修 | ①一般職員向け ②中堅・リーダー向け ③施設長向け | ①1回(1日間) ②1回(2日間) ③1回(1日間) | ①6月 ②10月、11月 ③1月 | ①80 ②40 ③80 | | |
| | 4 | 社会福祉主事資格認定講習会 | 大阪市職員 大阪市社会事業施設協議会施設職員 | 1回(53日間) | 6月～3月 | — | | |
| | 5 | 社会福祉施設職員人権研修 | 大阪市社会事業施設協議会施設職員 | 4回(4講座各1日) | 7月、9月 11月、2月 | 100～ 150 | | |
| | 6 | ゼミナール 社会福祉 | 社会福祉施設の地域福祉 実践講座 | 社会福祉従事者 | 1回(5日間) | 7月～2月 | 12 | |
| スーパーバイザー養成講座 | | | 社会福祉従事者 | 1回(4日間) | 7月～1月 | 15 | | |
| コミュニティソーシャルワーク | | | 地域福祉実践に関連する実務経験3年以上の実践者 | 1回(5日間) | 7月～1月 | 15 | | |
| 精神障害をもつ人と家族への 支援実践講座 | | | 社会福祉従事者 | 1回(5日間) | 9月～1月 | 12 | | |
| 7 | | | スキル アップ 講座 | 電話応対と来客応対の実践 | 社会福祉従事者 | 1回(1日間) | 4月24日 | 40 |
| | | | | 相談面接の技術 | 社会福祉従事者 | 1回(1日間) | 5月15日 | 40 |
| | アサーティブトレーニング (協調的に主張する技術) | 社会福祉従事者 | | 1回(1日間) | 7月27日 | 40 | | |
| | コミュニケーションが楽しく なる技術 | 社会福祉従事者 | | 1回(1日間) | 未定 | 40 | | |
| | ファシリテーションスキル (会議運営の技術) | 社会福祉従事者 | | 1回(1日間) | 12月12日 | 40 | | |
| 8 | 職場研修 推進研修 | 職場研修担当者養成研修 | 法人・施設の職場研修担当者、または従事予定者 | 1回(3日間) | 11月2日、11月9日、 11月16日 | 36 | | |
| | | OJT推進研修 | | 1回(2日間) | 2月22日、3月1日 | 30 | | |
| 9 | 福祉人材養成連絡協議会会員提供講座 | 社会福祉従事者 | 未定 | 未定 | 未定 | | | |
| 地域福祉 推進 者研修 | 10 | 地域福祉推進リーダー養成塾 | 福祉従事者で地域福祉活動を実践・展開しようとする人 や現在活動している市民 | 1回(6日間) | 8月～1月 | 30 | | |
| 介護保険事業関係研修 | 11 | 認知症 介護 研修 | 認知症介護実践者研修 | 認知症介護職員及びその指導的立場にある方。他受講 要件あり。 | 6回(各6日間) | 6月～2月 | 各66 | |
| | | | 認知症介護実践 リーダー研修 | 認知症介護実践者研修修了者。他受講要件あり。 | 1回(講義9日間、 実習3日間) | 8月～10月 | 30 | |
| | | | 認知症介護実践リーダー研修 修了者フォローアップ研修 | 認知症介護実践リーダー研修修了者 | 未定 | 未定 | — | |
| | | | 地域密着型サービス認知症 介護研修 | 地域密着型サービス事業所の開設者、管理者、及び計画 作成担当者 | 2回(3コース、 計8日間) | 9～10月、2～3月 | 各コース あわせて90 | |
| | 15 | 介護 職員 研修 | 介護等技術研修 | 大阪市内介護保険関係の施設・事業所に勤務する介護 専門職員 | 4回(7テーマ、 7日間) | 5月～1月 | テーマによつて 20～80 | |
| | | | 訪問介護サービス提供 責任者研修 | ①初級(業務経験3年未満) ②中級(業務経験3年以上) | ①1回(2日間) ②1回(1日間) | 未定 | 各60 | |
| | | | ホームヘルパービギナーズ 講習会 | ヘルパー資格を取得しており、現在未就労で、近々就職 する意欲のある方。介護経験年数が通算1年未満で介護 技術に自信のない現役ホームヘルパー | 1回(5日間) | 未定 | 20 | |
| 市民参加研修 | 18 | 社会福祉講演会 | 市民、社会福祉関係者等 | 5回(各1日間) | 6月～2月 | 各100 | | |
| | 19 | 地域福祉講演会・特別セミナー (国際セミナー、シンポジウム) | 市民、社会福祉関係者等 | 1回 | 未定 | — | | |
| | 20 | 社会福祉基礎講座 | 市民、社会福祉関係者等 | 23回 | 6月～3月 | 各15 | | |
| | 21 | 社会福祉史市民講座 | 市民、社会福祉関係者等 | 4回(各1日間) | 4月28日、6月23日 他未定 | 各50 | | |
| | 22 | 介護実習 講座 | 入門コース | 市内在住、在勤、在学の方 | 8回(各3日間) | 4月～2月 | 各20 | |
| | | | ステップアップ(応用) テーマ別コース | 入門コースを修了した方 | 4回5テーマ | 6月、9月、 12月、3月 | 各20 | |
| | | | ステップアップ(応用)コース 講演会 テーマ：認知症の治療とケア | 市内在住、在勤、在学の方 | 1回(1日間) | 未定 | 100 | |
| 23 | 自助具製作体験講座 | 市内在住、在勤、在学の方 | 1回(2日間) | 2月 | 20 | | | |



障害児保育のはじまりと発展③

本稿は三話完結の第三話です。

1974(昭和49)年、保育研究発表会で「風の子保育園」は5年間の障害児保育の総括発表をしました。5年間の経験の中でわかったのは、障害のある子の問題は、その子だけを取り出して解決することはできない。その子を取り巻く、両親やきょうだい、祖父母、地域等、全体の関係の中で改善されなければならないということでした。

しかし、障害のある子の親は、そのように考えていませんでした。保育園に預ければ子どもは良くなっていくという期待や、他の子と比較して「我が子を早く成長させてほしい」という焦りが感じられました。

障害は、種類、程度もさまざまなので、療育には専門家のアドバイスが不可欠であることも次第に明らかになってきました。さらに、健常児の集団との関わりも決して万能ではなく、発達状況によっては、発達の阻害になることもわかってきました。

そうした経験から、専門家集団が揃う専門施設が別になり、そこで、親子共に療育について学び、そこを経由して保育園に入るのが望ましいと考えるようになりました。こうした構想で実現したのが、1978(昭和53)年に、発足した「淡路こども園」です。以降、「風の子保育園」に入園する障害児のほとんどはこの「淡路こども園」を経由して入園しています。また、定期的に行うケース会議には「淡路こども園」から、スーパーバイザーとして心理の専門家が参加しています。

風の子保育園は、大阪で初めて障害児保育をスタートさせた保育園ですが、それは時代の勢いが私どもの背中を押していたんじゃないかなと思っています。障害があっても地域の子ですので、一般の保育所や幼稚園で、健常児と一緒に生活するのは意義があります。しかし、保育所の保育士は障害児に関する療育面での十分な知識や能力を持ち合わせて

いません。また、障害児に対する療育の専門家の支援システムというものが、現実にはありません。学童の場合、今日ではほとんどの障害児は養護学校でなく、地元の学校の養護学級に行くようになり、形は変わりましたが、中身は以前と少しも変わっていません。さらに、一人の子が通う保育所と就学する小学校とも連携していません。これは、昭和50年代と全く同じ姿です。

私どもの法人には、成人の障害者の施設があります。そこには昭和47年に「風の子保育園」にきた重度知的障害の子4人が暮らしています。小中学校を経由して、今、成人の施設にきているのです。ある障害者のお母さんは、こういうふうに発言していました。保育園を卒園してから12年間経ったのですが、「この子は、12年間、時計が止まったままです」と。保育園を卒園したころは、ニコニコしていて表情もやわらかかったのですが、成人の施設に入るときは能面のように堅くなり、重度化してしまっているのです。

学校教育の養護教育と、福祉の世界での支援には、ケアの考え方に随分違いがあるのではないかと推察します。学校の場合は、障害のある子であろうとなかろうと、放課後、夏休み、冬休みは、家庭任せになっています。福祉の方から手を差し伸べて、ここ数年前からはデイサービス事業が認められるようになり、利用することができるようになりました。そういう点では、学校というのは家庭が全責任を負っていかざるを得ず、そういう状況は以前から変わらず続いています。

それから、障害のある子の問題だけでなく、きょうだいの問題も含めてのケアを考える必要があります。障害がある子だけに、親の気持が集中し、きょうだいに、様々な影響が及びます。きょうだいに対するケアはまだ、制度外にある問題です。しかし、そこに、手を差し伸

べるということは、本来の福祉の仕事だと思います。私どもでは、障害のある子のきょうだいも対象のひとつとしてとらえ、さらには、夫婦間の問題も念頭に入れ、その調整やケアについて考えていきたいと思っています。

1970年代に、コミュニティケアの考えが日本に入ってきました。「国際障害者年」を契機に、「ノーマライゼーション」の思想が広がりました。今日では、「コミュニティインクルージョン」という新しい考え方が導入されています。いずれも基本的に共通するものを持っています。

しかし、わが国の場合、この思想や理念が機械的に施策にあてはめられるだけで、実態は空疎なものになっている場合が多いといえます。それは単に障害児を一般集団に入ればよいということであり、障害者は地域において入れ物をつくれればいいという状況です。

本当は、一人ひとりの障害児・者に対して、主体性を尊重する施策を進めていくべきであり、その人の生涯を見通しながら、幼児期、学童期、成人それぞれのライフステージに対して一貫したケアをしていくことが大切です。「障害者自立支援法」は、サービスの切り売りをシステム化されたものであって、本人主体の自己決定などの自立支援とは言い難い。そういう意味からも、障害児保育は、その人の人生の出発を担っているだけに、関係者の責任は、重大だと言えます。



※この稿は大阪市社会福祉研修・情報センターで開催された「社会福祉史の市民講座」の講演〔講師：松村寛 社会福祉法人水仙福祉会〕の聴き取り(言葉については歴史的事実として当時の表現をそのまま使用しています)から抜粋したものです。

今月号の特集について もっと詳しく知りたい方は…

「要援護者支援と 災害福祉マップづくり」

◎全国民生委員児童委員連合会 編
全国社会福祉協議会 2010年

「災害時一人も見逃さない運動」を継続し、さらに定着と発展を図るために、民児協の組織的な取り組み方や災害福祉マップ作りに関する手順や方法、災害時の被災者支援活動など具体的に解説。



「災害と福祉文化」

◎日本福祉文化学会編集委員会 編
明石書店 2010年

1995年の阪神・淡路大震災、2004年の新潟中越地震の事例を中心に、災害発生直後から復興期に至るまでの福祉文化活動について解説。被災経験の数々を教訓化した多種多様な福祉文化実践を紹介する。



- 大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書、視聴覚資料（ビデオ、DVD等）、雑誌等を多彩に揃えています。
- 貸出は図書5冊、視聴覚資料5本、期間はそれぞれ2週間です。
- ホームページから蔵書検索やDVDなどのリストがダウンロードできます。

<http://www.wel-osaka.jp/>
☎06-4392-8233

（開室時間：月～土曜日・午前9時30分～午後5時。
図書・資料閲覧室の開室時間外は、当センターの開設時間内であれば1階事務室で返却できます。）

図書紹介

「DVDつき ゼロからわかる手話入門」

◎谷 千春 監修/手話指導 主婦の友社
2011年

新しい言葉や、地震や震災など、いざというときに役立つ表現もあり。付属のDVDは、スロースピードとノーマルスピードの2段階で収録され、音声、字幕の選択も可。また、右利き、左利きの両方の動画が収録されている。



「ケアマネジャーをめざす人の本 合格への近道 '12年版」

◎コンデックス情報研究所 著
成美堂出版 2012年

「ケアマネジャー試験」の受験を考えている人のために、制度、受験手続や資格、試験内容、効率的な学習法、出題傾向などを紹介。



「介護の言葉かけタブー集」

◎介護の言葉かけ研究会 編
誠文堂新光社 2011年

介護の多様な現場で、利用者への対応で困ったときに即座に役立つ100通りの実例集。「自立を促したいとき」「お願いや注意したいとき」など、タブーな言葉かけと、うまくいった言葉かけを収録。



DVD紹介

「高齢者に優しい食生活のポイント ①食生活と調理のポイント」

◎アスク 58分 2011年

前半では、噛む力や飲み込む力が弱くなった方でも食べやすく栄養バランスの良い食事の作り方などを解説。後半は、骨粗しょう症予防など、目的や健康状態に応じた献立を紹介。



「介護職のための医療的行為と技術 &薬の扱い」

◎コーセイ 90分 2011年

厚生労働省の医療行為の解釈変更の通知に沿った形で、医療的行為と一部医療行為についての基本的な理解と技術、手技を専門家による動画で確認することが出来る。



「DVDブック 夜一人でも大丈夫だ！ たんの吸引緊急時対応看取りケア」

◎飛田 拓哉 著 日総研出版 2011年

たんの吸引、緊急時対応、看取りケアの映像DVDで解説（テキスト付き）



図書

- 「ケアの社会学」 太田出版 2011年
- 「尿失禁・認知症ケア マンガでリアルに対処法」 日総研出版 2011年
- 「同行援護従業者養成研修テキスト」 中央法規出版 2011年

DVD

- 「英国王のスピーチ」 ハピネット 2011年

大阪市では、次の健康診査を実施しています。

| 健診種別(方法) | 対象者等※1 | 料金 | 実施機関 |
|---|---|----------|----------------------|
| 胃がん検診 (胃部エックス線撮影) | 受診日現在40歳以上の大阪市民 (年度中1回) | 500円 | 保健福祉センター |
| | | 1,500円 | 検診取扱医療機関 |
| 300円 | | 保健福祉センター | |
| 無料(喀痰細胞診検査:400円) | | 検診取扱医療機関 | |
| 大腸がん検診 (免疫便潜血検査) | | | |
| 肺がん検診 (胸部エックス線撮影) (ハイリスク者には喀痰検査も) | | | |
| 子宮頸がん検診 (子宮頸部細胞診検査) | 受診日現在20歳以上で当該年度の対象(※2)となる生まれ年の女性市民(2年に1回) | 400円 | 検診取扱医療機関 |
| 乳がん検診 (視触診と超音波検査) | 受診日現在30歳代の女性市民 (年度中1回) | 1,000円 | 保健福祉センター 検診取扱医療機関 |
| | 受診日現在40歳以上で当該年度の対象(※2)となる生まれ年の女性市民(2年に1回) | 1,500円 | 保健福祉センター 検診取扱医療機関 |
| ナイスミドルチェック (上記がん検診・骨量検査・歯周疾患検診の全てを行います。) | 平成24年度は、昭和27年、37年、47年生まれの大阪市民 | 無料 | 検診取扱医療機関 |
| 〈特定健診と同時実施〉 B・C型肝炎ウイルス検査 | 受診日現在40歳以上の大阪市民で過去に同等の検査を受けたことがない方 | 1,000円 | 保健福祉センター 検診取扱医療機関 |
| 骨量検査(踵骨超音波測定法) | 18歳以上の市民 | 無料 | 保健福祉センター |

※1 いずれの検診も、勤務先等で同程度の検診を受診できる方、検診部位の病気で治療中・経過観察中の方、自覚症状のある方は対象外です。
 ※2 当該年度の対象者となる生まれ年、自己負担金免除となる方については、大阪市ホームページ及び市や各区広報誌等でご確認いただくか、各区保健福祉センターへお問合せください。

元気なうちからはじめよう! 介護予防

大阪市では、介護が必要な状態になることをできる限り予防するための「介護予防教室」を実施しています。運動機能や栄養状態、口腔機能などの生活機能を基本チェックリストでチェックし、生活機能の低下が心配される方に、介護予防教室への参加をおすすめしています。基本チェックリストは、平成24年3月1日現在、70歳以上の方(要支援・要介護認定を受けている方を除く)に対し、誕生月ごとに送付しますので、ぜひ一度ご自身でチェックしてみてください。対象となられた方は、元気なうちから介護予防教室に参加し、身体も気持ちもリフレッシュしましょう。※参加費は無料です。※教室に参加するときには、身体の状態を確認するための健診を受診していただきます(無料)。※教室に通うことが困難な方には保健師等の専門職がご自宅にうかがい、個別の状態に合わせた生活機能向上の支援を行います。

| 送付対象者 | 基本チェックリスト送付時期 |
|-------------|---------------|
| 1~3月生まれの方 | 平成24年4月下旬 |
| 4~6月生まれの方 | 平成24年6月中旬 |
| 7~9月生まれの方 | 平成24年7月下旬 |
| 10~12月生まれの方 | 平成24年9月下旬 |



※介護予防教室の様子

【お問い合わせ先】大阪市福祉局高齢福祉課

☎06-6208-9962 06-6202-6964

今月の
自助具

ipad用保護ケース付きキーボードカバー

資料提供:HUMAN universal design office 岡田英志さん

主な適応疾患・対象者

- 液晶画面上のタッチキーを、一つひとつ打つことの出来ない人。(失調症や不随意運動の人、脳性マヒ等運動障害を持つ方)

機能・特徴

- ipad液晶画面のキーパターン上に穴の開いた板を置き、板の穴を通してその下のキーパターンの上にタッチできるようにガードする
- ウレタン素材で製作したケースで本体を衝撃から守る

使い方

- 穴の開いた透明板を取り付けたケースに、ipadを差し入れ、穴の開いた上からキーパターンを一つひとつ押して使用する。



問合せ 大肢協・ボランティアグループ自助具の部屋 ☎06-6940-4189(月・水・金 10:00~15:00)

健康生活
応援グッズ

ショッピングを楽しく安全に

ポップなデザインで、
大容量の買い物パートナー!



◎ヘルスバッグわくわくタント

ハンドルの高さが4段階調節でき、手元でブレーキとストッパーを一体化。軽量アルミ仕上げで、夜道も安心の反射板、杖・傘立て付きのシルバーカー。ゆったりシートに座ったり、買い物カゴも置けます。

多機能で使いやすい
スタンダード
シルバーカー!



◎デュオDX

肘掛付で、座り心地抜群の低反発シート使用の座面は、開口が広く荷物の出し入れがしやすい2WAY開閉。買い物カゴも載せやすく、カゴにセットできる便利なエコバッグ付です。ワンタッチで折りたたみ可能。

座面が低めの設計で
腰掛安心タイプ!



◎レコルティ

荷物をたっぷり収納できる大容量シルバーカー。押し手の高さが6段階調節でき、タイヤ取替時期お知らせ機能、夜道も安心の反射板、折りたたみロックなど簡単な操作性と安全設計。取り外し可能な小物入れ付。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会 事務局
〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54
大阪社会福祉指導センター2階

☎06-6762-7895 FAX 06-6762-7894
http://kansil.jp

ご利用ください。社会福祉関連の図書・資料がそろっています!

大阪市社会福祉研修・情報センターの2階に「図書・資料閲覧室」があります。
貸出できる図書約14,000冊、DVD・ビデオ約1,100本をそろえています。



●このような方が来館・利用しています。

- *ケアマネジャー、ホームヘルパー、福祉施設職員等の社会福祉専門職の方
- *福祉の仕事に就こうとする方や、福祉の資格を取得しようとする方
- *ボランティア活動をしている方
- *自宅で介護をされている方
- *福祉に関する研究や授業の参考にしようとする教育関係者など



●主な蔵書のテーマ

介護、認知症、障害者福祉、児童虐待、地域福祉、福祉教育、成年後見、人権、リハビリテーション、福祉行政、大阪の福祉の歴史など

毎月1回、新着の図書やDVD等をホームページに掲載しています(チラシも作成)。

また、ホームページからは検索もでき、貸し出し状況などが確認できます。

<http://www.wel-osaka.jp/>

開室時間:月曜日～土曜日(センターの休館日は除く。)の午前9時30分～午後5時

※開室時間以外でも、当センターの開館時間内であれば1階事務室で返却可

貸出期間:2週間(図書・雑誌等は5冊、DVD・ビデオは5本まで)

利用資格:貸出し期限(2週間)内に、来館しての返却可能な方

※郵送での返却はできません

※初回の登録時には、住所・氏名などの証明ができる本人確認書類(保険証・免許証など)を持参ください

平成24年4月から
午前9時30分～午後5時に
開室時間を変更します!

問合せ先:06-4392-8233(直通)

パンフレット、カタログ、雑誌から会社案内等々

広告・デザイン・印刷のことなら

何でもご相談ください。



たとえば団体や催し物をアピールするためのパンフレットやフライヤー。作りたいものがあったとしても、それがなかなかカタチにならず困ったことはありませんか?そんなときは、アド・エモンにご連絡ください。当社が企画の段階から納品にいたるまで、各専門スタッフが的確にサポートし、あなたとアイデアをつなぐトビラになります。



TOTAL CREATION
AD.EMON
株式会社 アド・エモン

〒530-0045 大阪市北区天神西町8-19 法研ビル5F

TEL:(06)6362-1511(代) FAX:(06)6362-1510 E-mail:info@ad-emon.com

<http://www.ad-emon.com>

(広告)

本誌「ウェルおおさか」 発行月変更のお知らせ!

本誌「大阪の福祉を知るみんなの情報誌『ウェルおおさか』」は、これまで毎月発行しておりましたが、平成24年度からは偶数月(1日付)に隔月発行させていただくことになりました。

これまで以上に、タイムリーな情報を掲載したいと考えておりますので、引き続きご愛読いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

次号は6月1日発行です

開館日・時間、休館日

開館時間 / 午前9時から午後9時まで(土・日曜日は午前9時から午後5時まで)

ただし、展示ギャラリー、図書・資料閲覧室は午後5時まで

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

●それぞれの開設日・時間

| 項目 | 直通電話番号 | 開設日(休館日を除く) | 開設時間 |
|---------------|--------------|-------------|--|
| 会議室など利用の問い合わせ | 06-4392-8200 | 毎日 | 午前9時～午後9時(土・日午後5時まで) (会議室の申込・お支払いは午前9時30分～午後5時) |
| 研修関係の問い合わせ | 06-4392-8201 | | 午前9時～午後5時 |
| 図書・資料閲覧室 | 06-4392-8233 | 月～土曜日 | 午前9時30分～午後5時 |

貸室ご利用の皆様へ

大阪市社会福祉研修・情報センターでは、貸室ご利用の皆様により計画的に便利にご利用いただくため、空室状況を公開し、FAXによる申込みを受付けています。

① 空室状況をホームページに掲載しています。

空室状況は、ホームページの「センターご案内」→「貸室利用のご案内」→「空室一覧」に、PDFで4カ月分掲載。

URL / <http://www.wel-osaka.jp/>

② 利用申込の受付は4カ月前からです。

利用日の4カ月前から、電話や直接窓口で予約いただいたうえ、所定の用紙で申し込みください。

受付時間は午前9時30分から午後5時まで

☎06-4392-8200

●FAXによる申し込み手続きの手順

FAXによる申込は、ホームページの「センターご案内」→「貸室利用のご案内」→「FAXでのお申し込み」に、申込手順を掲載しています。

FAX 06-4392-8206

※ファックスでの申し込み可能な期間は、利用日の4カ月前の午前9時30分から利用日の3日前までです。



交通 / ご来所には【市バス】【地下鉄】【JR】をご利用ください

●市バス

「長橋二丁目」バス停すぐ
7系統(あべの橋～住吉川西)・
52系統(なんば～あべの橋)
赤バス(西成西ルート)

●市営地下鉄・四つ橋線

「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分

●JR大阪環状線・大和路線

「今宮」駅から徒歩約10分

「ウェルおおさか」の主な設置・配布場所

区在宅サービスセンター(区社協)、区老人福祉センター、区子ども子育てプラザ、区役所、区民センター、大阪市内の図書館、大阪市サービスカウンターなど

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体 / 大阪市

運営主体 / 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

(指定管理者)

電話 / ☎06-4392-8200 (代表)

ファックス / ☎06-4392-8206

URL / <http://www.wel-osaka.jp/>

「休日夜間福祉電話相談」の開設と、社会福祉研修・情報センターでの「総合相談」終了のお知らせ

これまで大阪市社会福祉研修・情報センターで実施していた「高齢者電話相談」及び「総合相談」は、平成24年3月31日で終了しました。4月1日から、休日・夜間に高齢者や障害のある人を対象とした相談窓口「休日夜間福祉電話相談」を開設します。

【相談受付時間】▶ ●休日=日曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)の9:00～17:00
●夜間=毎日17:00～翌9:00

【電話番号】
☎06-4392-8181

なお、相談受付時間以外の高齢者や障害のある方を対象とした相談は、区の保健福祉センターや区在宅サービスセンター、お住まいの地域の地域包括支援センター、障害者相談支援センター(4月開設予定)などをご活用ください。